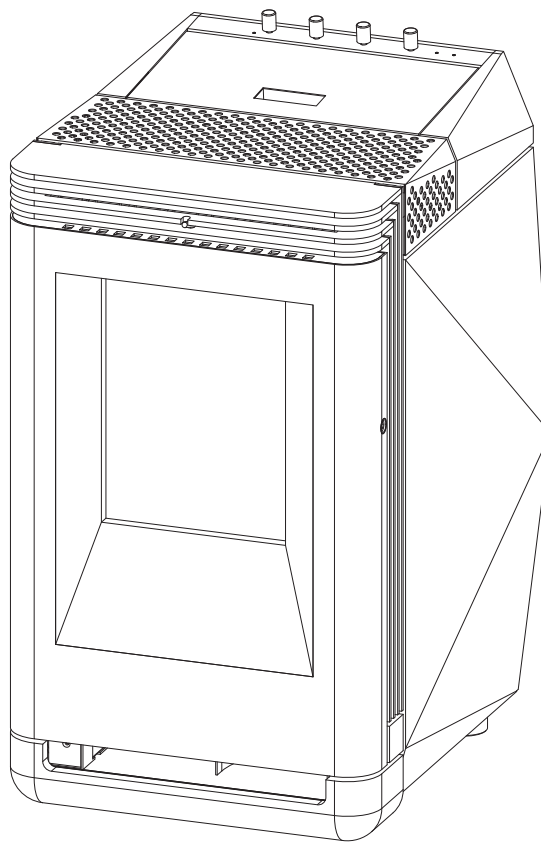


取扱説明書

品番 AL2006

このたびは、本品をお買い上げ頂きまことにありがとうございます。ご使用前に、この取扱説明書を必ずお読みのうえ、正しくご使用ください。お読みになった後は、大切に保管していただき、取り扱いのわからないときや不具合が生じたときにお役立てください。



保証書別添付

安全上のご注意

安全に使用していただくための重要な項目ですので必ずお読みください。

このペレットストーブは、暖房機用です。室内暖房以外のご使用は絶対しないでください。室内暖房以外でご使用になった場合の故障・修理・事故その他の不具合については、責任を負いかねますのでご了承ください。

ここに表示した事項は、安全に関する重大な内容の記載です。表示の意味は次のようになっています。



警告

誤った取り扱いをすると、使用者が死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される内容を示します。



注意

誤った取り扱いをすると、使用者が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示します。



してはいけない「禁止」事項です。



しなければならない「実施」事項です。



「注意」事項です。



絶対に分解・修理・改造はしないでください。



絶対に触れないでください。



必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

警告

高温部接触禁止

ストーブ運転中、及び運転停止後しばらくは、高温部、給排気筒等に触れないでください。やけどの恐れがあります。特に小さいお子様の見える家庭では、ストーブに触らせないよう、ガードなどを使用し、十分な配慮をしてください。



禁止

可燃物接触禁止

カーテンや洗濯物など燃えやすい物の近くでは使用しないでください。また、スプレー・ガソリンなど引火の恐れがあるものは近づけないでください。発火、火災の恐れがあります。



禁止

木質ペレット燃料以外混入禁止

燃料タンクには木質ペレット燃料以外の物を入れないでください。故障の原因になります。



禁止

燃焼室異物混入禁止

燃焼室には、紙、布などを入れないでください。また、ライター、マッチでの着火、着火材は使用しないでください。



禁止

ストーブの上に物を置かない

ストーブの上に用途以外の物を置かないでください。加熱し危険です。



禁止

給排気筒のはずれ危険

給排気筒が正しく接続しているか点検してください。外れていると運転中に燃焼ガスが室内に漏れて危険です。



実施

分解修理禁止

故障、破損したら使用しないでください。不完全な修理や改造は危険です。お買い求めの販売店に修理を依頼してください。



分解禁止

異常時使用禁止

臭い、煙、煤の発生、異音など、異常を感じたときは運転を停止してください。火災や異常燃焼の恐れがあります。



禁止

警 告

お手入れはストーブが完全に冷えてから

ストーブ運転停止後しばらくは、本体、給排気筒が高温になっています。完全に冷えてから行ってください。

やけどの恐れがあります。



禁止

ストーブ運転中は扉、灰受皿を開けないでください。

火災、やけど、異常燃焼の恐れがあります。



禁止

燃料タンクフタ開放厳禁

着火後は燃料タンクのフタが閉められている事を確認してください。

異常燃焼の恐れや、火災の原因となります。



禁止

給排気筒閉そく危険

積雪や異物などで、給排気筒の先端がふさがれているときは取り除いてください。

運転中に燃焼排ガスが、室内に漏れて危険です。



実施

アースを取り付ける

漏電時に感電の恐れがあります。

アース工事は必ず販売店に依頼してください。



実施

据付上の注意

お客様ご自身による設置は危険です。据付工事や移転工事は、必ず弊社指定店にご依頼ください。施工上の責任は弊社では負いかねます。ストーブ及び給排気筒の備え付けには、各地の火災予防条例に従って備え付けてください。



実施

雷サージの取り付け

雷多発地域では、雷サージ付き電源タップの使用をお勧めします。



実施

注 意

電源プラグのお手入れを

電源プラグを抜き、ほこりや金属が付着している場合は、取り除いてください。
ほこりが溜まると湿気などで絶縁不良になり、感電、ショートの原因になります。



ほこりやごみを取り除く

使用しないときは電源プラグを抜く

使用しないときや、お手入れの際は電源プラグを抜いてください。また、電源プラグは濡れた手で抜き差ししないでください。
火災や感電、予想しない事故の原因になります。



プラグを抜く

電源コードを傷めない

電源コードに物を載せたり、高温部に近づけたり、電源コードを傷めるようなことはしないでください。また、プラグを抜くときはコードをもって引き抜かないでください。
火災や感電の原因になります。



実施

電源プラグは確実に差し込む

電源プラグはコンセントの根元までしっかりと差し込んでください。又、傷んだプラグや緩んだコンセントは使用しないでください。
火災や感電の原因になります。



実施

電源の接続

電源は適正配線された単相100V以外では使用しないでください。また、電源コードは延長コードを使用したり、たこ足配線をしないでください。発熱、発火の原因になります。



禁止

木質ペレット燃料は食べないでください

乳幼児が誤って口に入れないよう注意してください。



禁止

ストーブ表面のお手入れには、研磨剤など、ご使用なさないでください

塗装のはがれ、さびの原因になります。



禁止

ストーブの上に花瓶等のこぼれやすい物、及び用途以外のものを置かない

水が内部に入ると感電や故障の原因になります。また、高温状態のガラスに水などがかけると、割れる恐れがあります。



禁止

目 次

安全上のご注意	1～4
目次	5
各部の名称と機能	6～7
使い方	8～12
燃料の確認	8
ペレットの補給	8
扉	8
トップカバー	8
はじめて使用するとき	8
運転の開始	8
火力と温風の調整	9
燃焼に必要な給気量の調整	9
運転の停止	9
着火タイマの設定	9
運転中に燃料がなくなったら	9
掃除モード	9
日常のお手入れ	10～11
定期的なお手入れ	10～11
オフシーズンのお手入れ	11
オフシーズン中の保管	12
販売店によるメンテナンス	12
ストーブの移転	12
危険な状態と対処法	13
正常な状態	13
危険な状態	13
危険な状態の対処法	13
故障かな？と思ったら	14～15
仕様	16

各部の名称と機能

トップカバー

取外して、やかん等を使用することができます

燃料タンク

木質ペレット燃料貯蔵庫（10Kg）

パイプクリーナー

熱交換パイプに付着した灰を落とします

温風吹出し口

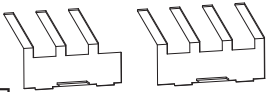
燃焼室内で暖めた空気を送り出します

熱交換パイプ

温風を吹出すパイプ（燃焼室上部）

バッフルプレート

燃焼効率を高めるための板です



燃焼室

燃料を効率的に熱にします

扉レバー差込口

レバーを差込口にセットします

扉

扉レバー

扉レバー差込口にセットし、前後に回し扉を開け閉めします

セラミックボード

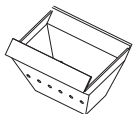
燃焼室内の後壁

燃料落下口

ペレットが落ちてきます

燃焼ポット

ペレットを効率的に燃焼させます



灰受皿（小）

燃焼後の灰が溜まります

灰受皿（大）

燃焼後の灰が溜まります

【ストーブ背面】

バックパネル

ダンパ

燃焼に必要な給気量を調節します

電源スイッチ

アース付
電源コード

アース



使い方

【燃料の確認】

このペレットストーブは、木質ペレット燃料専用です。ボイラー用のバークペレットや、木質以外が含まれるペレットは使用できません。木質ペレットは原料や産地などにより品質（熱量や灰の多さ）が異なります。使用するペレットはストーブを購入された販売店によく確認してください。

※保管している間にペレットが湿気を持つことがあります。湿気を持ったペレットを使用すると着火しにくくなり、不完全燃焼の原因になります。

【ペレットの補給】

使用前には燃料タンクを確認し、ペレットを補給してください。燃料タンクの容量は10kgです。火力が最大で6時間、最小で16時間燃焼します。

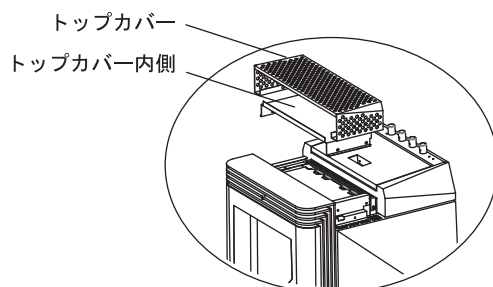
※ペレットの補給は運転前に行ってください。ペレット補給後は燃料タンクのフタを確実に閉め、運転中は燃料タンクのフタを開けないでください。異常燃焼や火災の原因となります。

【扉】

扉は付属の扉レバーで開閉します。扉レバー差し込み口に扉レバーをはめ込み、回すとロックがかかります。扉が閉まっていないと、空気の流れが無くなるので不完全燃焼やトラブルの原因となります。しっかりと閉めてください。

【トップカバー】

トップカバーを外し、次にトップカバー内側を外します。ストーブの上にやかん等を乗せ使用することが出来ます。※トップカバーを外す際はやけどに十分注意してください。※水や熱湯がこぼれないよう十分に気を付けてください。



【初めて使用するとき】

初めて使用するときはペレットが供給されるまで少し時間がかかります。

運転スイッチを押す前に、燃焼ポットにペレットを適量（2つかみ・燃焼ポットの1/3くらい）入れてください。

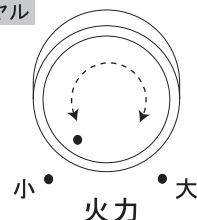
【運転の開始】

火力ダイヤルを中（12時方向）にしてから運転スイッチを押してください。

※火力ダイヤルが大きすぎると、ペレットの供給量が多くなるため着火時に大量の煙が出ます。

※火力ダイヤルが小さすぎると、ペレットの供給量が少なくなるため着火まで時間がかかります。

火力ダイヤル



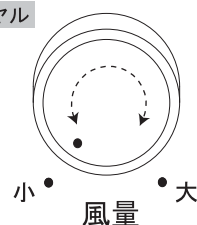
【火力と温風の調整】

温風吹き出し口から温風が出てきたら火力と温風量を調整してください。

火力が大きすぎたり、温風量が小さすぎると、ストーブ本体が高温になるため安全装置が働きます。

一次的に温風が強くなり、炎が小さくなりますが、一定温度まで下がると元に戻ります。

温風ダイヤル



使い方

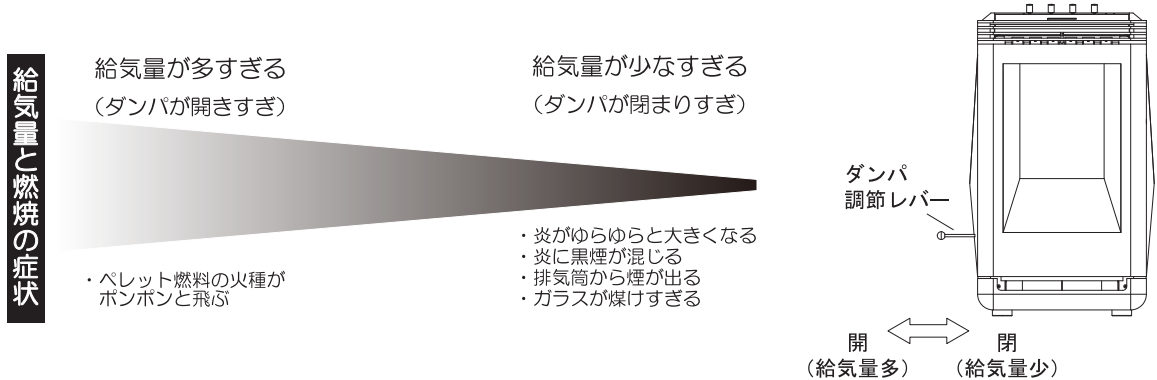
【燃焼に必要な給気量の調整】

ダンパで給気量を調整できます。

給気量が多いと、火種が飛ばされやすくなります。立消えしそうな場合はダンパを閉めて給気量を少なくします。

給気量が少ないと、不完全燃焼になりやすくなります。炎に黒い煙が出る場合はダンパを開いて給気量を多くします。（14ページの良い燃焼参考）

※ダンパ調整レバーを手前に引くと給気量が多くなり、押しこむと少なくなります。



【運転の停止】

運転スイッチを押します。運転ランプ（緑）が消灯し、ペレットの供給が止まります。

安全温度になるまで温風吹き出しと排気は継続し、安全温度になったら停止します。

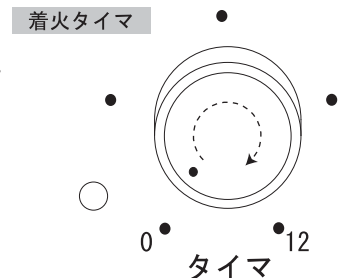
【着火タイマの設定】

着火タイマはストーブが停止しているときにセットできます。

起動するまでの時間分タイマダイヤルを回し、運転スイッチを押します。

※設定時間を変更する場合は、一度タイマダイヤルを0まで戻してからもう1度セットしてください。

※タイマダイヤルは自動で0に戻らないので、着火後は手動で0に戻してください。



【運転中にペレットがなくなったら】

運転中にペレットがなくなると、運転ランプ（緑）が点滅してお知らせします。

初めて使用するとき同様、燃焼ポットに適量（2つかみ・燃焼ポットの1/3くらい）のペレットを入れ、火力ダイヤルを12時方向にしてから運転スイッチを押してください。

【掃除モード】

灰掃除などの際は扉を開けるので、室内に灰が舞うことがあります。これを抑えるため、排気ファンのみ運転させて舞い上がった灰を吸い出す機能「掃除モード」があります。

①本体が停止しているときに、運転スイッチを押して通常起動させます。

②もう1度運転スイッチを押すと運転ランプが消灯し、排気ファンのみが運転する「掃除モード」になります。

※掃除モード中にもう一度運転スイッチを押すと、通常起動します。

※掃除モードは30分後に自動停止します。

使い方

【日常のお手入れ】

日常のお手入れはストーブが停止中に行ってください。

■燃焼ポットの掃除

燃焼ポットが灰で埋まっていると、次に使用するとき着火しなかったり、大量の煙が出る場合があります。使用前または使用後には必ず燃焼ポットの灰掃除を行ってください。

- ①掃除用のハケで燃焼ポットの底に残った灰を灰受皿に落とします。クリンカーとよばれる硬い灰のかたまりができたときは、ハケの柄など硬い棒を使って確実に落としてください。
- ②着火ヒーターカバー(筒)にたまった灰を取り除いてください。

■窓ガラスの掃除

窓ガラスが曇っていると、燃焼状態を確認できません。窓ガラスはいつもきれいな状態にしてください。窓ガラスに付着した汚れは、新聞紙に水を含ませ、少し灰を付けて拭くとよく落ちます。

■ストーブ本体

ストーブ前面には効率的に熱を出すための特殊な塗料が塗られています。強く擦ると跡がつくので、本体前面の掃除を行うときは柔らかい布で掃うように掃除してください。

【定期的なお手入れ】

日常のお手入れの他、1ヶ月に1度は定期的なお手入れを行ってください。

■灰の処理

灰受皿（大）と灰受皿（小）にたまった灰は、お住まいの市町村の条例に従って定期的に捨ててください。灰の量は使用頻度やペレットの質により異なります。

■燃料タンクの掃除

燃料タンクの底にたまったペレットの粉は、燃料詰まりや立消えの原因になります。定期的にペレットを使い切り、燃料タンクの底にたまったペレットの粉を掃除機で吸い取ってください。

■熱交換パイプの掃除

温風を出すための熱交換パイプに付着した灰は、パイプクリーナーで掃除します。

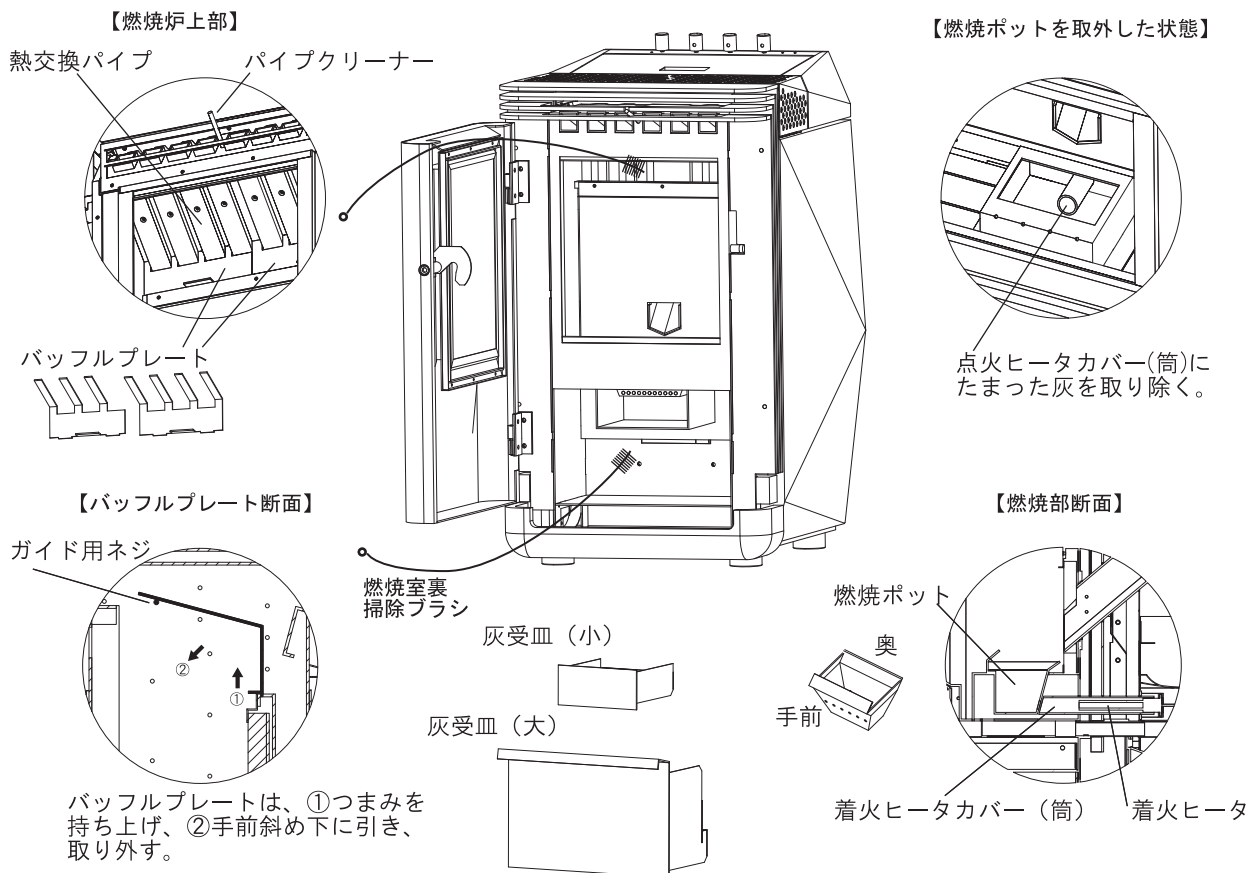
- ①燃焼室上部（熱交換パイプ）のバッフルプレートを取り外します。
- ②パイプクリーナーを引き出して熱交換パイプに付着した灰を落とします。
- ③燃焼室内に落ちた灰を灰受皿に払い落とします。
- ④バッフルプレートを取り付けます。

※バッフルプレートは熱交換及び排気経路に多くの灰が吸い込まれることを防ぐ目的がありますので、正しく取り付けてください。

■バックパネルの掃除

ストーブ背面に付着したほこりは定期的に掃除機などで取り除いてください。

使い方



【オフシーズンのお手入れ】

オフシーズンになったら、排気経路に付着した灰を掃除します。

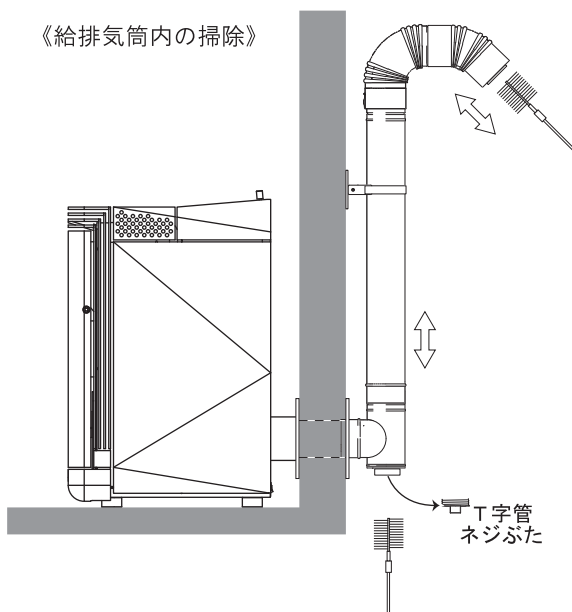
■燃焼室裏の掃除

- ① バッフルプレートと灰受皿 (大) を取り外します。
- ② 排気経路の上部、下部から付属の燃焼室裏掃除ブラシを入れて、燃焼室裏に付着した灰を落とします。
- ③ 落ちた灰は灰受皿 (大) の奥に落ちます。掃除用のハケなどで取り除いてください。
- ④ バッフルプレートを取り付けます。

■給排気筒の掃除

給排気筒の立ち上げ部分、横引き部分に付着、堆積した灰を給排気筒ブラシで掃除します。設置方法により排気筒の灰掃除の方法は異なりますので、販売店に相談して正しく掃除してください。

《給排気筒内の掃除》



【オフシーズン中の保管】

■燃料タンク

燃料タンク残ったペレットは粉になったり湿気を吸うため、使い切るか取り除いてください。

■電源プラグ

コンセントから電源プラグを抜いてください。

■給排気筒

給排気筒の先端（排気トップ）に鳥や虫が入らないように、排気筒キャップを取り付けてください。
屋外立上排気の場合は屋外立上用排気キャップも取り付けてください。

■燃焼室

湿気による燃焼室内のサビを防ぐため、燃焼室に除湿剤を置いてください。

【販売店によるメンテナンス】

本体や給排気筒の点検、扉のガスケットや灰受皿のパッキンなど消耗品の交換を兼ねて、2年に1度は販売店にメンテナンスを依頼してください。

【ストーブの移転】

引越などでペレットストーブの設置位置が変わる場合は、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

危険な状態と対処法

【正常な状態】

■良い燃焼

ペレットストーブの炎は、薪ストーブのようにユラユラと燃えるのではなく、黄色く輝く炎になり、勢いもあります。

良い燃焼



【危険な状態】

■ガラスが曇って中が見えない

燃焼状態は、お客様の責任において、目視にてご確認ください。不完全燃焼により窓ガラスが黒く曇っていると、炎や燃焼ポットの状態を確認できないため危険です。運転スイッチを押して消火させ、冷めたらガラスの掃除を行ってください。

ガラスが曇って中が見えない



■赤黒い炎になっている

正常な状態の炎は明るく勢いがありますが、不完全燃焼となっている炎は赤黒く勢いもありません。運転スイッチを押して消火させ、冷めたら定期的なお手入れを行ってください。

危険な燃焼（不完全燃焼）



■ペレットが山盛りになっている

燃えているペレットで燃焼ポットが山盛りになったまま使用すると、ペレットが落ちてくる穴を通して燃料タンクに火が入る「逆火」になる恐れがあるため大変危険です。運転スイッチを押して消火させ、冷めたら定期的なお手入れを行ってください。

ペレットが山盛りの状態



【危険な状態の対処法】

■本体から煙が漏れた

給排気筒が立ち上がっていない場合、停電すると煙が室内に漏れることがあります。部屋の窓を開けて換気してください。

■緊急消火方法

燃料タンクから煙が出るなど異常な状態になったら、水をかけるのではなく、多めに水を含ませたタオルなどを燃料タンクや燃焼室に投げ入れてください。扉を開ける際は、周囲に可燃物がないことを確認し、やけどに十分注意してください。

緊急消火



故障かな？と思ったら

トラブルが起きたときや疑問点があるときは、まずここを読んで対処してください。

症状	考えられる原因	処置のしかた	参照ページ
ストーブが 起動しない	■電気がきていない - 電源プラグが挿されていない。 - 背面の主電源がオフになっている。	- 電源プラグをコンセントに挿し込んでください。 - 主電源を入れてください。	7
	■着火タイマーがセットされている	着火タイマーのダイヤルを0に戻してください。	9
ペレットが 落ちてこない	■燃料が切れていた	燃料タンクにペレットを入れてください。	9
	■燃料が詰まった 燃料タンクのスクリュウにペレットや、ペレットの粉、異物が詰まっている。	燃料タンクからペレットを取り除き、スクリュウカバーを外して異物を取り除いてください。	
ペレットに 火が点かない	■空気が正常に流れていない - 扉が開いている - 燃烧ポットに灰が残っている。 - 給排気筒に灰がたまっている。 - 排気管キャップが付いている。	- 扉をしっかり閉めてください。 - 燃烧ポットを掃除してください。 - 給排気筒を掃除してください。 - 排気管キャップを取り外してください。	8 10 11 12
	■点火ヒータの熱が伝わっていない - 燃烧ポットが正しくセットされていない。 - 点火ヒータの筒が灰で埋もれている。	- 燃烧ポットを正しくセットしてください。 - 点火ヒータの筒にたまった灰を掃除してください。	11
着火時に大量の 煙が出る 着火時に大きな 音がすることが あります。	■燃料と空気のバランスが合っていない - 燃烧ポットに灰がたまっている。 - 燃料供給量が多い。 - 空気量が少ない。 - 燃烧室の裏側に灰がたまっている。 - 給排気筒に灰がたまっている。	- 使用前には燃烧ポットを掃除してください。 - 起動時は火力ダイヤルをまわして燃料供給量を少なくしてください。 - ダンパを開いてください。	8 9
炎に勢いが ない ガラスが黒くなる (不完全燃焼)	■燃料と空気のバランスが合っていない - 燃料供給量が多い。 - 空気量が少ない。 - 燃烧ポットに灰がたまっている。 - 燃烧室の裏側に灰がたまっている。 - 給排気筒に灰がたまっている。	- 火力ダイヤルをまわして燃料供給量を少なくしてください。 - ダンパを開いてください。 - 燃烧室の裏を掃除してください。 - 給排気筒を掃除してください。	8 9 11
運転中に火が 消えた (立ち消え)	■燃料と空気のバランスが合っていない - 燃料供給量が少ない。 - 空気量が多い。	- 火力ダイヤルをまわして燃料供給量を多くしてください。 - ダンパを押し込んでください。	8 9
温風が強く なった 風量ダイヤルが きかない	■過熱防止装置がはたらいた 本体の温度が上がると、自動で温風を最大にして放熱します。	しばらくして温度が下がると元に戻ります。 火力を小さくするか、風量を大きくしてください。	
緑色のランプが 点滅した (着火失敗・立ち 消え)	■着火失敗	「ペレットが落ちてこない」、「ペレットに火が点かない」を確認してください。	
	■燃料切れ、燃料詰まり、立ち消え	「ペレットが落ちてこない」、「運転中に火が消えた」を確認してください。	

故障かな？と思ったら

トラブルが起きたときや疑問点があるときは、まずここを読んで対処してください。

症状	考えられる原因	処置のしかた
黄色のランプが点滅した (感震エラー)	■地震などの揺れを感知した(感震エラー)	完全に停止するまで待ってから再起動してください。
赤色のランプが点滅した (排気エラー)	■排気の異常を感知した ・強風で正常に排気できない。 ・積雪で排気トップが埋もれている。 ・給排気筒内の灰や異物	強風がなくなるまで使用を控えてください。 排気トップの周辺を確認してください。 燃烧室の裏側や給排気筒を掃除してください。
赤色のランプが点灯した (過熱エラー) 排気ファンは運転し続けます。	■本体が異常に過熱した 過熱防止装置でも温度上昇が止まらない場合、燃料供給を停止して排気ファンをまわし続けます。	本体が過熱した原因を調べるため、販売店に連絡してください。
運転中に停止した (エラー表示なし) 排気ファンが止まるので、室内に煙が漏れることがあります。	■運転中に停電した	煙が部屋に漏れる場合は換気してください。

仕 様

商品名	コンコード・オルコット
暖房方式	強制給排気（FF式）・強制対流形
点火方式	自動着火
使用燃料	木質ペレット（バーク不可）
発熱量（入力）	2,850kcal/h ～ 6,500kcal/h 10,800kJ/h ～ 27,040kJ/h
熱効率	80%
暖房出力	6.0kW
暖房目安	木造（戸建て） 15畳まで コンクリート（集合）20畳まで
タンク容量	10kg
外形寸法	W470×D507×H772
重 量	90kg
電 源	100V 50Hz・60Hz
定格消費電力 点火時	450W
定格消費電力 運転時	60W/100W
安全装置	感震装置・過熱防止装置・逆圧防止装置
機 能	着火タイマー・掃除モード

- 発熱量は、木質ペレットの発熱量、4,300kcal/kg（18,000KJ/kg）を基準に算出しています。
- 暖房目安はペレットクラブ ストープ規格認証委員会の算出・表示方法に基づき、使用ペレットはペレットクラブ燃料規格A1：4,300kcal/kg（低位発熱量）、畳数は「1,000×暖房出力(kw)/適室基準値（木造398、コンクリート298）」で算出しています。
- 製品改良のため、デザイン、仕様の一部を予告なく変更することがあります。
- この製品は、海外ではご使用になれません。

MEMO

部品のご入用、故障の場合、その他取扱上不明な点があった場合には、ご遠慮なく
お買上げの販売店にお問い合わせください。
※改良の為に断りなく仕様、外観などを変更することがあります。

Shimotani

製 造 元 有限会社シモタニ
岐阜県下呂市萩原町上村853-1 TEL0576-52-3775

<http://www.shimotani.com>

販売店